SONY

3-088-916-**02**(1)

スポーツパック

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

SPK-HC

必ずお読みください。
- 必ず事前に、正常に動作するか、水漏れはないかを確認してください。
- 万一、スポーツパックの不具合により水漏れ事故を起こした場合、内部機材（デジタルビデオカメラレコーダー、バッテリーなど）の損傷、および記録内容や撮影に要した諸費用などの補償は、ご容赦ください。
- スポーツパックおよび内部機材に対するソニー水中機材損害保険を用意しております。案内書をお読みのうえ、加入されることをおすすめします。

主な特長

- 本機はソニーのデジタルビデオカメラレコーダーDCR-HC40/HC30/DVD201/DVD101/TRV33/TRV22対応のスポーツパックです。
- お手持ちのデジタルビデオカメラレコーダーに本機を取り付けると、雨天時や海辺（水中では水深2m以内）での撮影ができます。

安全のために

ソニー製品は、安全に充分配慮して設計されています。しかし、間違った使いかたをすると、火災などによる人身事故が起きるおそれがあり危険です。事故を防ぐためにつぎのことを必ずお守りください。

- **安全のための注意事項を守る**
- **故障したら使わずに、テクニカルインフォメーションセンターに修理を依頼する**
- **万一異常が起きたら**

❶ 電源を切る
❷ テクニカルインフォメーションセンターに修理を依頼する

警告表示の意味

この取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠注意　この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

行為を禁止する記号

⚠注意　**下記の注意事項を守らないと、けがをすることがあります。**

衝撃を与えない
ガラス部分が割れて、けがの原因となることがあります。

取り扱い上の注意

- 本体の前にあるガラス面に強い衝撃を与えないでください。割れることがあります。
- 海辺や海上でのスポーツパックの開閉はできるだけ避けてください。デジタルビデオカメラレコーダーの取り付けやテープ・" メモリースティック "・ディスクの交換などは、湿気の少ない、潮風のあたらない場所で行ってください。
- スポーツパックを水中に投げ込まないでください。
- 波が高い場所でのご使用は避けてください。
- 次の場所でのご使用は避けてください。
  - 高温多湿な場所
  - 40℃を越える温水の中
  - 0℃以下の場所

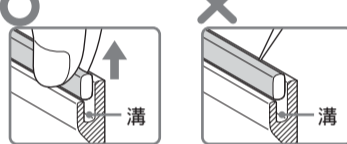
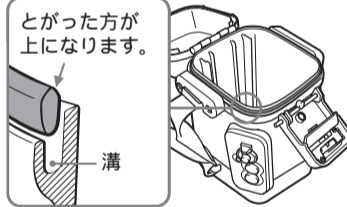
  結露、水漏れ、デジタルビデオカメラレコーダーの故障の原因になります。
- 湿度の多いところでのデジタルビデオカメラレコーダーの取り付けは避けてください。結露の原因となります。
- 周囲温度が35℃を越えるときのご使用は、連続1時間以内にしてください。
- 炎天下に長時間放置しないでください。やむをえず直射日光のあたる場所に置く場合は、上からタオルなどをかけておいてください。

スポーツパックにサンオイルなどが付着したときは、必ずぬるま湯でよく洗い流してください。付着したまま放置していると、スポーツパック表面の変色やダメージ（表面のヒビなど）の原因となります。

水漏れについて

万一内部に水滴などが確認された場合は、ただちにご使用を中止してください。
デジタルビデオカメラレコーダーが濡れた場合は、至急テクニカルインフォメーションセンターへご相談ください。修理費用はお客様のご負担となります。

防水パッキンについて

- **防水パッキンのキズやヒビ割れは浸水の原因になります。**
  直ちに新しいものと交換してください。防水パッキンを溝からはずすときに、とがったものや金属を使うと溝にキズをつける恐れがありますので使用しないでください。

- **防水パッキン全面に付属のグリスを指先で薄く塗ってください。**
  防水パッキンの磨耗を防ぎます。布や紙にグリスをつけて塗ると、繊維が防水パッキンに付着することがありますので使わないでください。
- 防水パッキンを装着するときは、防水パッキン全面に付属のグリスを薄く塗り、とがった方を上にしてねじれないように注意しながら入れてください。

- 防水パッキンの寿命は使いかたによって異なりますが、防水性能を維持するため1年に1度は交換することをおすすめします。交換するときは、テクニカルインフォメーションセンターへご相談ください。交換後は、必ず水漏れの確認をしてください。

水漏れの確認方法

防水パッキン交換後は、デジタルビデオカメラレコーダーを収納する前にスポーツパックを閉じて、水中（15cm位）に約3分間沈めて水漏れがないことを確認してください。

防水パッキン、グリスは

テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。
防水パッキン
（番号 3-081-530-01）
グリス（番号 3-071-370-01）

お手入れのしかた

海でのご使用後は、必ず、バックルをはずす前に真水（水道水など）で洗い、塩分をおとしてから、乾いた柔らかい布で水分を拭き取ってください。（30分程度、真水に浸しておくことをおすすめします。）塩分がついたままにしておくと、金属部分が傷ついたり、さびたりして、水漏れの原因になることがあります。

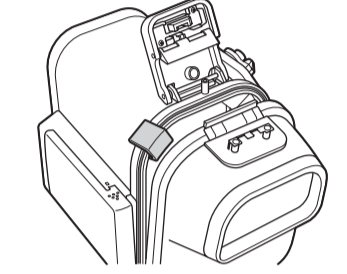
- サンオイルなどが付着したときは、ぬるま湯でよく洗い流してください。
- スポーツパック内部は、乾いた柔らかい布で拭き、水洗いはしないでください。
- シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げを傷めますので、使わないでください。

くもり止めリキッドについて

スポーツパック前部のガラス面に付属のくもり止めリキッドを塗布すると、くもり防止に効果があります。

- **くもり止めリキッドの使用方法**
  フロントガラス、アイカップのガラス面の内側に2〜3滴たらして、コットン、柔らかい布、ティッシュペーパー等でクリーナー液が均等に広がるように拭いてください。

保管するときは

- 防水パッキンの劣化を防ぐため、お買い上げ時に付いていたスペーサーを取り付けてください。
- 防水パッキンの劣化を防ぐため、ボディーを閉じたあとバックルは締めないでください。
- 防水パッキンにホコリがつかないようにしてください。
- 高温、寒冷、多湿な場所や、ナフタリン、樟脳などを入れている場所での保管は、機材を傷めますので避けてください。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう1度点検してみましょう。
それでも正常に作動しないときは、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

□音声が記録されていない
- → デジタルビデオカメラレコーダーのMIC（PLUG IN POWER）端子にマイクプラグをしっかり差し込む。

□スポーツパック内部に水滴がつく
- → バックルをカチッとロックされるまで締める。
- → 防水パッキンを正しく装着する。
- → 防水パッキンにキズ、ヒビ割れが入っている場合、新しいものと交換する。

□撮影ができない
- → バッテリーパックを充分に充電する。
- → デジタルビデオカメラレコーダーの LANC 端子またはREMOTE（リモート）端子にリモートプラグをしっかり差し込む。
- → テープが終わりになっている場合、別のカセットを入れる。またはテープを巻き戻す。
- → " メモリースティック "の残量がない場合、別の" メモリースティック "を入れる。または不要なデータを消す。
- → カセット・" メモリースティック "の誤消去防止つまみ・スイッチを戻す。または別のカセット・" メモリースティック "を入れる。
- → ディスクの空き容量がない場合、新しいディスクを入れる。または初期化する（DVD-RWをお使いの場合のみ）。
- → ディスクがファイナライズされている場合、ファイナライズ解除する（DVD-RWをお使いの場合のみ）。または新しいディスクを入れる。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受けとりください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
" 故障かな?と思ったら "の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは
テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証書は国内に限られています
付属している保証書は、国内仕様です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。当社ではスポーツパックの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。
●型名：SPK-HC
●故障の状態：できるだけ詳しく
●お買い上げ日

■テクニカルインフォメーションセンター
ご使用上での不明な点や技術的なご質問のご相談、および修理受付の窓口です。

電話のおかけ間違いにご注意ください。

製品の品質には万全を期しておりますが、万一不具合が生じた場合は、「テクニカルインフォメーションセンター」までご連絡ください。
修理に関するご案内をさせていただきます。また修理が必要な場合は、お客様のお宅まで指定宅配便にて集荷にうかがいますので、まずお電話ください。

電話：　0564-62-4979
受付時間：月〜金曜日　午前9時〜午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
お電話される際に、本機の型名（SPK-HC）をお知らせください。
より迅速な対応が可能になります。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

各部のなまえ

主な仕様

材質
プラスチック（PC、ABS）、ガラス

防水構造
防水パッキン、バックル

耐圧
水深2mまで

外部より操作可能な動作
撮影・再生時の電源入／切、録画開始／停止、フォト操作、ズーム操作

最大外形寸法
136×157×202 mm
（幅／高さ／奥行き）

質量
約650ｇ（本体のみ）

付属品
ショルダーベルト（1）
台座A（1）
台座B（1）
反射防止リング（∅25mm）（1）
反射防止リング（∅30mm）（1）
グリス（1）
スペーサー（1）
くもり止めリキッド（1）
取扱説明書（1）
保証書（1）
損害保険のご案内（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますがご了承ください。

http://www.sony.co.jp/

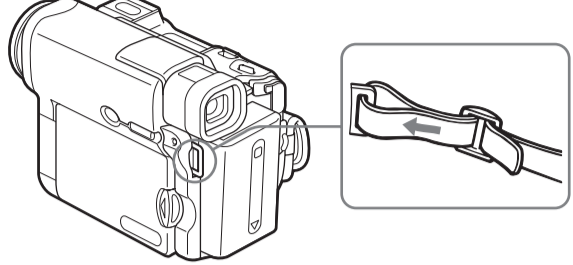
この説明書は100%古紙再生紙とVOC (揮発性有機化合物)ゼロ植物油型インキを使用しています。

準備

デジタルビデオカメラレコーダーの準備

デジタルビデオカメラレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 付属品をはずす。

MCプロテクター、NDフィルター、コンバージョンレンズ、特殊フィルター、レンズキャップ、ショルダーストラップなどを取りはずしてください。
DCR-HC40/HC30をご使用のときは、レンズシャッターを開けてください。

2 バッテリーを取り付ける。

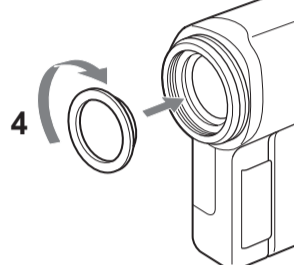
3 メディアを入れる。

DCR-HC40/HC30/TRV33/TRV22**をお使いの場合**
カセット・“ メモリースティック ”を入れる。

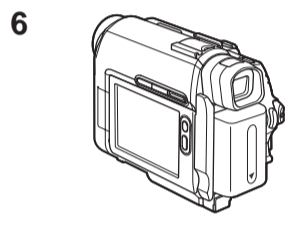
DCR-DVD201/DVD101**をお使いの場合**
ディスクを入れる。

誤消去防止つまみ・スイッチを解除し、記録できるようにしてください。
テープ・“ メモリースティック ”・ディスクの残量を確認しておいてください。
ディスクがファイナライズされていないことを確認しておいてください。

4 反射防止リングを取り付ける。

反射防止リングを取り付けることにより、デジタルビデオカメラレコーダーのレンズリング部がフロントガラスへ写り込むのをある程度防ぎます。

5 ビューファインダーは最大まで伸ばす。

6 液晶画面を見ながら撮影するときは、液晶画面を外側に向けて本体に閉じる。

DCR-HC40/HC30をお使いの場合は、液晶画面を見ながら撮影してください。

7 デジタルビデオカメラレコーダーのフォーカス・明るさなどの調節が手動になっているときは、自動に戻す。

デジタルビデオカメラレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

台座の準備

お手持ちのデジタルビデオカメラレコーダーに合わせて、取り付ける台座を準備します。

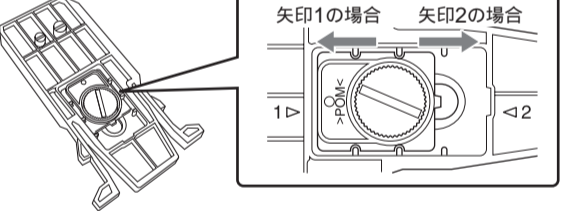
1 下の表から、お手持ちのデジタルビデオカメラレコーダーに合う台座・矢印番号を選ぶ。

台座	矢印番号	デジタルビデオカメラレコーダー
A	1	DCR-TRV33/TRV22
	2	DCR-DVD201/DVD101
B	–	DCR-HC40/HC30

2 台座Aをお使いになる場合には、矢印番号に合わせて、三脚ネジプレートを取り付ける。

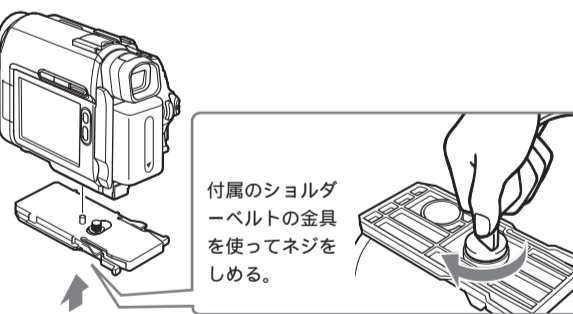
製品出荷時は、三脚ネジプレートは台座Aの矢印番号1の位置に取り付けてあります。

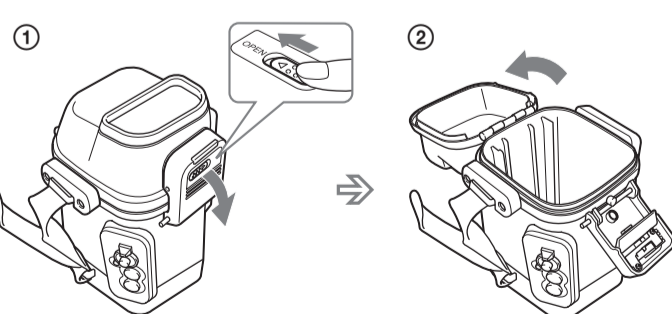
台座Aと三脚ネジプレートの取り付け

三脚ネジプレートを、矢印番号の方に寄せてパチンと音がするまで押し込む。

デジタルビデオカメラレコーダーを取り付ける

デジタルビデオカメラレコーダーの電源スイッチは切（充電）に、スポーツパックのPOWERスイッチは「OFF」にしておいてください。

1 台座に取り付ける。

デジタルビデオカメラレコーダー底面の三脚用ネジ穴に台座のネジをあわせます。

2 スポーツパックを開ける。

① ロック解除ボタンを矢印の方向へずらし、バックルをはずす。
② 後部ボディーを開く。

3 フロントガラスにくもり止めリキッドを塗る。

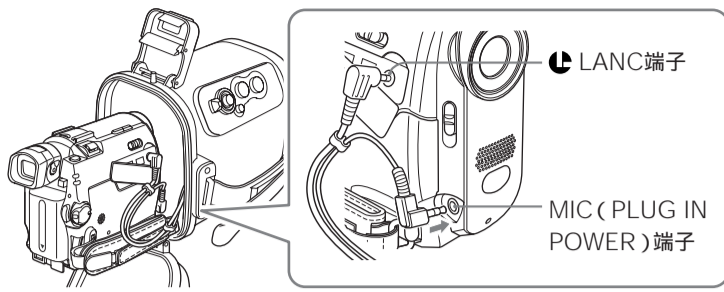
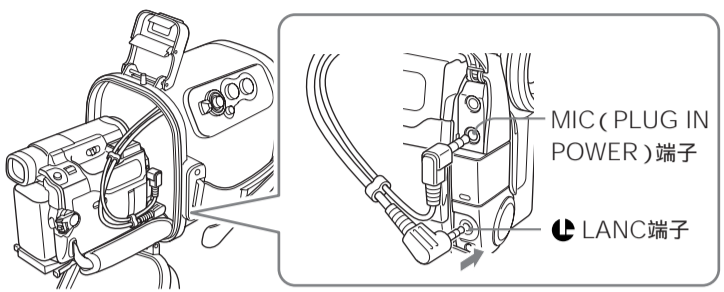
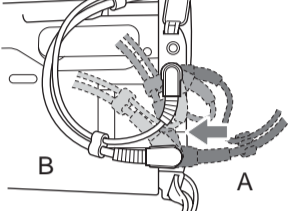
スポーツパック前部のガラス面の内側に、付属のくもり止めリキッドを2～3滴たらして塗布します。

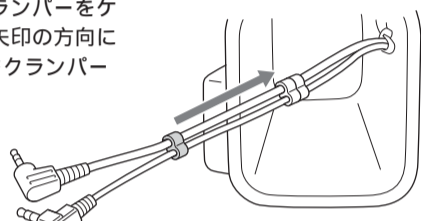
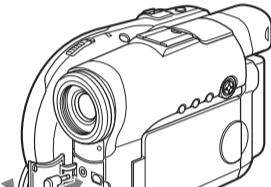
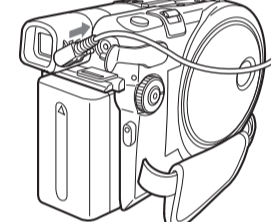
4 砂やゴミを取り除く。

防水パッキン、溝および本体との接触面の砂やゴミなどをきれいに取り除き、防水パッキンに薄く均一にグリスを塗ります。
砂やゴミが付着したままふたを閉めると、傷が付いて浸水の原因になります。

5 プラグを接続する。

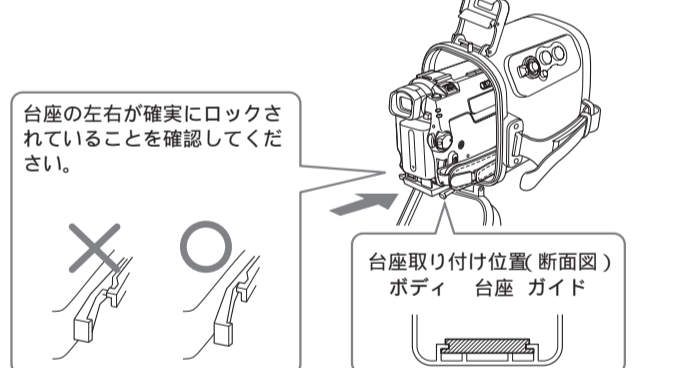
お手持ちのデジタルカメラレコーダーに合わせて、下のイラストの手順で、リモートプラグを LANC端子またはREMOTE（リモート）端子へ、マイクプラグをMIC（PLUG IN POWER）端子へ奥までしっかりと差し込む。

DCR-HC40/HC30**をお使いの場合**

DCR-TRV33/TRV22**をお使いの場合**

下図Aの位置に端子が差し込まれている場合は、コードクランパーを指ではさんでから、端子の向きを矢印の方向に移動して、Bの位置にしてください。

DCR-DVD201/DVD101**をお使いの場合**

① プラグ側のコードクランパーをケーブルを揃えたまま矢印の方向に移動し、2個のコードクランパーを揃える。

② マイクプラグをマイク（プラグインパワー）端子に差し込み、リモートプラグをデジタルビデオカメラレコーダーのディスクカバー側からREMOTE（リモート）端子の方向へ移動させる。

③ リモートプラグをREMOTE（リモート）端子に差し込む。

ご注意

両プラグが確実に接続されているか確認してください。

6 スポーツパックに取り付ける。

デジタルビデオカメラレコーダーとスポーツパックを下図の向きにし、台座を前部ボディー内のガイドに合わせ、台座の後部を押して、カチッとロックされるまで差し込みます。このとき、コードをはさまないようにご注意ください。接続したリモートプラグやマイクプラグが、スポーツパックの内部部品に当たらないように差し込んでください。また、コードがデジタルビデオカメラレコーダーのグリップベルトにはさまらないように差し込んでください。

ご注意

スポーツパックを立てた状態で台座を差し込まないでください。台座やフロント部を傷める原因になります。

7 後部ボディーを閉じる。

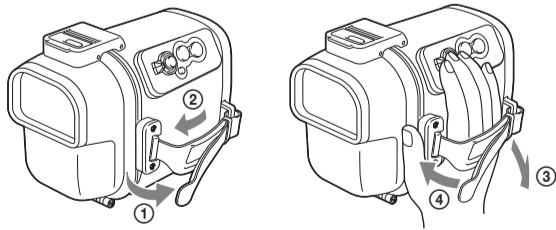
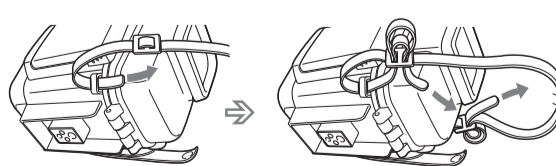
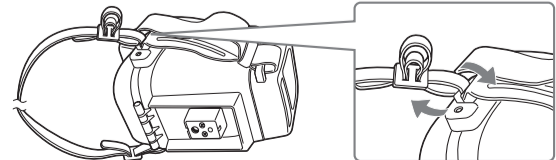
後部ボディーをしっかり押さえ、バックルがカチッとロックされるまで締めます。

ご注意

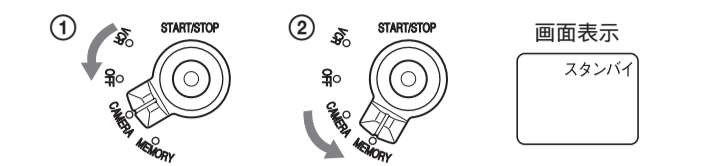
- コードをはさみこまないようにご注意ください。
- デジタルビデオカメラレコーダーをスポーツパックに収納したときに、レンズの中心がスポーツパックのフロントガラス部中心に対してずれていますが、撮影などには問題ありません。

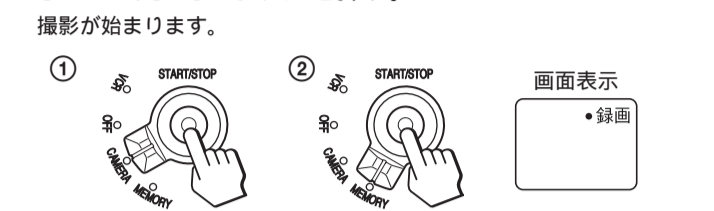
スポーツパックの準備

1 グリップベルトを調節する。

① グリップベルトを起こす。
② グリップベルトをゆるめる。
③ POWERスイッチやSTART/STOPボタン、ズームボタンを操作できるように手の位置を決め、グリップベルトを引っ張って調節する。
④ マジックテープで固定する。

2 ショルダーベルトを取り付ける。

スポーツパックを使う

動画を撮る

1 POWER**スイッチを、テープ・ディスクに記録する場合は「**CAMERA**」（①）に、“ メモリースティック ”に記録する場合は「**MEMORY**」（②）にする。**

2 START/STOP**ボタンを押す。**

撮影が始まります。

ご注意

- DCR-DVD201/DVD101をお使いの場合は、POWERスイッチを「MEMORY」にしての動画撮影はできません。
- カメラモードのとき、DCR-HC40/HC30/TRV33/TRV22をお使いの場合はテープに、DCR-DVD201/DVD101をお使いの場合はディスクに記録されます。

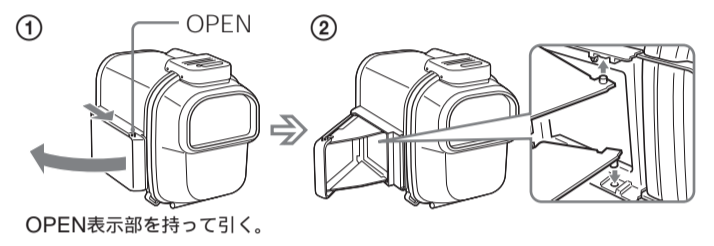
撮影を止めるには

START/STOPボタンを押します。
もう一度、START/STOPボタンを押すと撮影が開始されます。

電源を切るには

撮影を止めた状態でPOWERスイッチをOFFにします。

液晶画面を見ながら撮影する

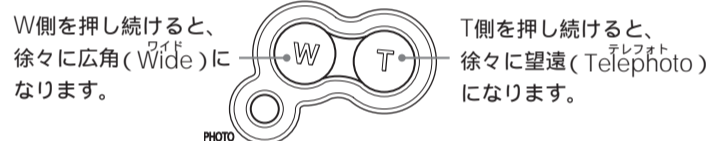
ミラーに映る映像を見ながら撮影することができます。
① 開閉式ミラーをずらして開く。
② 上下の羽を広げ、突起を穴にはめ込む。

ミラーを閉じるときは

上下の羽の突起をはずし、下の羽から閉じます。

ご注意

DCR-HC40/HC30をお使いの場合は、液晶画面を見ながら撮影してください。

ズーミングのしかた

速度が2段階に変化します。
軽く押すとゆっくりズーミングし、さらに押すと早くズーミングします。

ご注意

- カメラ側の電源スイッチに関係なく、スポーツパック側の電源スイッチが優先されます。
- 撮影スタンバイが5分以上続くと自動的に電源が切れます。これはバッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するためです。撮影スタンバイに戻すにはPOWERスイッチを「OFF」に戻してから、再び「CAMERA」にします。（DCR-HC40/HC30/DVD201/DVD101をお使いの場合で、自動電源オフ機能を［なし］にしているときを除きます。詳しくは、お使いのデジタルビデオカメラレコーダーの取扱説明書をお読みください。）

静止画を撮る

A. メモリーモードのとき

1 POWER**スイッチを「**MEMORY**」にする。**

2 PHOTO**ボタンを軽く押す。**

緑の・が点滅から点灯に変わり撮影可能となります。
この状態では、画像は記録されていません。

画面表示

3 PHOTO**ボタンを深く押す。**

ボタンを深く押したときの画像がDCR-HC40/HC30/TRV33/TRV22をお使いの場合は“ メモリースティック ”に、DCR-DVD201/DVD101をお使いの場合はディスクに記録されます。

B. カメラモードのとき

1 POWER**スイッチを「**CAMERA**」にする。**

2 PHOTO**ボタンを軽く押す。**

画面の右上に「キャプチャー」という文字がでます。
この状態では、画像は記録されていません。

3 PHOTO**ボタンを深く押す。**

画面に表示されている画像が、DCR-HC40/HC30/TRV33/TRV22をお使いの場合は“ メモリースティック ”に記録されます。

ご注意

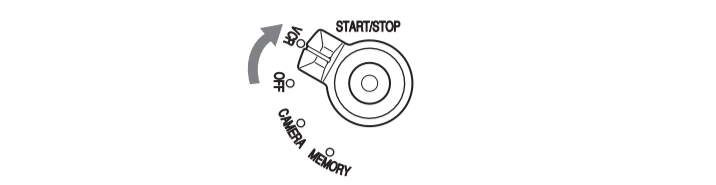
- スポーツパックを使ってナイトショット撮影をすることはできません。
- DCR-DVD201/DVD101をお使いの場合には、カメラモードで静止画を撮影することはできません。

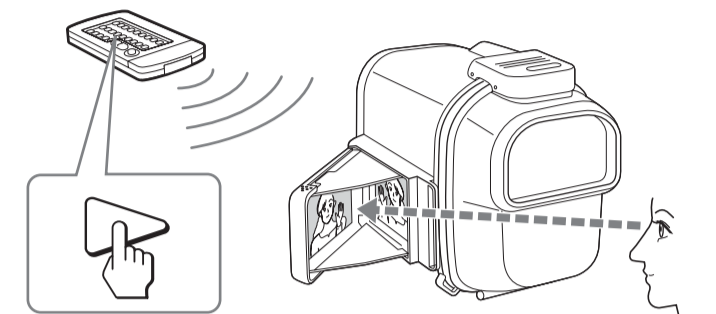
リモコンを使って画像を見る

デジタルビデオカメラレコーダーのリモコンを使って、液晶画面で画像を見ることができます。
音声は聞こえません。

ご注意

デジタルビデオカメラレコーダーのメニュー「リモコン」を「切」にしている場合は、スポーツパックの外からでは操作できませんので、「入」にしてください。

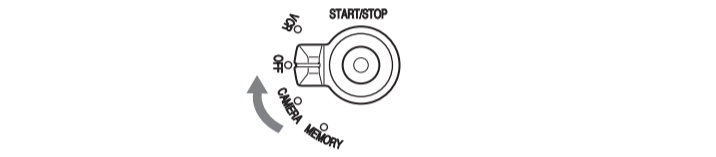
1 POWER**スイッチを「**VCR**」にする。**

2 リモコンの►を押す。

リモコンは受光部に向けて操作してください。
デジタルビデオカメラレコーダーのリモコン受光部はフロント中央にあります。

その他の操作（停止、巻き戻し、早送り）もすべてリモコンで行ってください。

ご注意

画面は左右が反転して見えます。

デジタルビデオカメラレコーダーを取りはずす

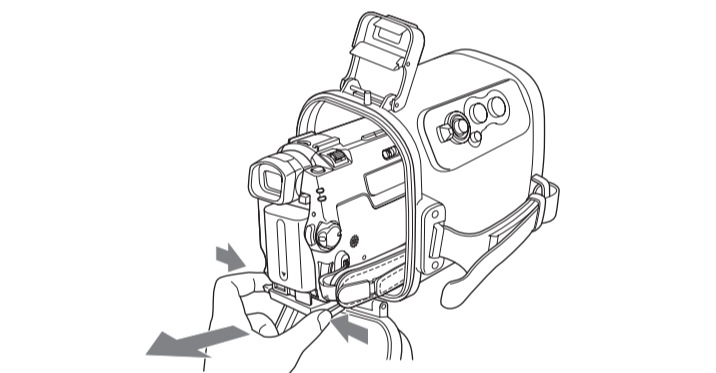
1 POWER**スイッチを「**OFF**」にする。**

2 バックルをはずして、後部ボディーを開ける。

「デジタルビデオカメラレコーダーを取り付ける」の手順2を参照してください。

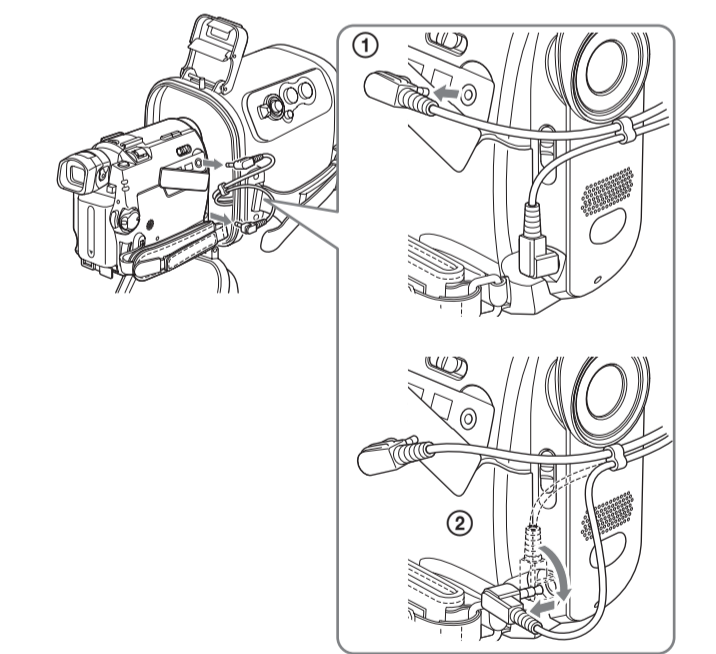
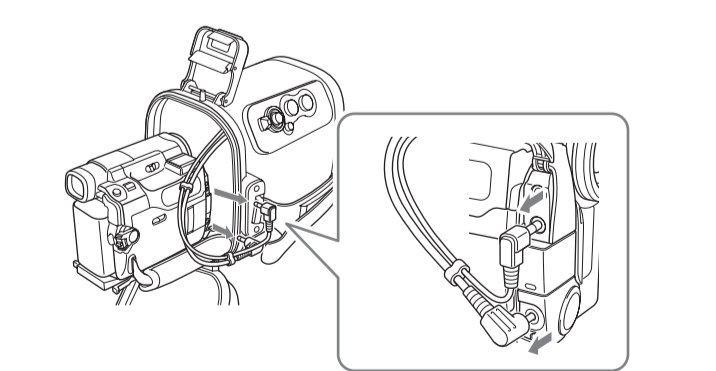
ご注意

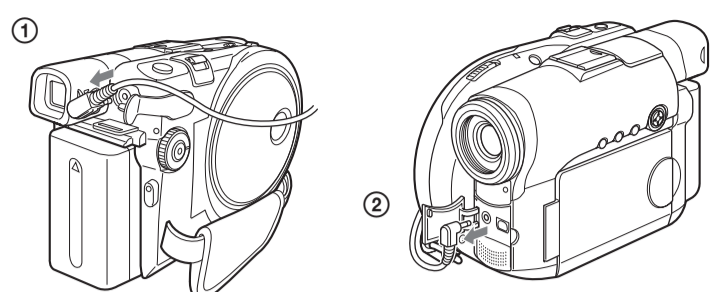
スポーツパックを開けるときは、スポーツパックと体についた水分を充分に拭き取ってから開け、水滴が内部のデジタルビデオカメラレコーダーにかからないようにしてください。

3 台座を引き出す。

台座の両側のノブを押さえるようにしてつかみ、ロックをはずしデジタルビデオカメラレコーダーをゆっくりと引き出します。

4 リモートプラグとマイクプラグが前部ボディーの外に出てきたところでいったん止め、それぞれのプラグを確実にはずす。

DCR-HC40/HC30**をお使いの場合**

① リモートプラグを取りはずす。
② マイクプラグを図の向きに回転させてから、取りはずす。

DCR-TRV33/TRV22**をお使いの場合**

DCR-DVD201/DVD101**をお使いの場合**

① リモートプラグを取りはずす。
② マイクプラグを取りはずす。

ご注意

リモートプラグ、マイクプラグはプラグ部を持って確実にはずしてください。コード部を持って抜いたり、プラグがはずれていない状態で台座を引き出すとプラグやデジタルビデオカメラレコーダーの端子の破損の原因となります。

5 台座を取りはずす。